

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームつくしの里

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900235		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームつくしの里		
所在地	岩手県一関市滝沢字寺下2番地1		
自己評価作成日	平成30年7月31日	評価結果市町村受理日	平成30年9月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act1on_kouhyou_detai1_2017_022_kani=truet&f_yosyoCd=0370900235-00&Pr_efCd=03&Ver_si_onCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

併設施設に、特養・デイサービス・高福センター・居宅があり、連携を図っています。利用者の重度化がありますが、センター方式を活用したりし、1人ひとりに合わせたケアが出来るようにしています。活動・外出についても、全体でも行いますが、個別での計画も検討しながら行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の中心部に隣接し、森林に囲まれた高台の小学校跡地に、特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、高齢者福祉センター、在宅介護支援センターも設置され、合同の避難訓練など、各種行事の共同開催のほか、ボランティアの受け入れ、特養の医師や看護師の助言・指導、関連施設の職員の支援など、各施設との連携のもと、効果的な運営を行なっている。法人の経営理念に基づき、グループホームの努力目標、実施細目を定め、職員会議などで共有し、きめ細かな介護サービスの提供に取り組んでいる。法人の認知症カフェの開催、看護学生や高校生の体験学習の受け入れのほか、避難訓練への地域住民の参加など、地域との連携にも力を入れている。法人の研修会等を通じ、職員による事業所の経営内容の確認、事業計画の立案、業務の実施、振り返り、新たな取り組みなど、知識の習得、技術の向上を図りながら、より充実した利用者への介護サービスの提供に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

平成 30 年度

事業所名 : 認知症高齢者グループホームつきの里

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示しながら、年度毎に努力目標・実施細目を職員からの意見も取り入れながら日々の業務に取り組んでいる。	法人の経営理念に基づき、事業所独自の努力目標、実施細目を職員会議で定め、施設内に掲示するほか、職員会議やミーティングなどで確認、共有し、日々の生活の中で、状況の変化に的確に対応したきめ細かなサービスを提供している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の床屋を利用したり、併設施設に床屋が来られた際に利用している。併設施設との行事に参加する際に地域との交流の機会がある。運営推進会議時にご意見を頂いている。	法人の広報紙を通じて、地域住民に業務内容等を周知している。なお、市の広報を区長から入手しているほか、地域の清掃活動への参加や草取りボランティアの受け入れ、法人の祭りへの住民参加など、地域との連携の強化に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	看護学生の受け入れをし、認知症の方に関する機会や理解を持って頂ける場となっている。施設への見学や電話相談にも対応し、事業所での状況をお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度会議を開催し、開催前の月には全ご家族に案内を送付している。会議には、日頃の様子や状況を報告しながら、意見やアドバイスを頂き、サービスに活かすようにしている。	市の担当者から、行政情報の提供や助言等を得ているほか、他の委員からの意見、要望を業務に反映させている。また、ゲストとして参加の駐在の警察官から、高齢者の行方不明の実例などの紹介を受けるなど、専門的な助言も得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年に1回、介護相談員の来所があり、利用者と話をしている。生保の方があり、来所時には状況の報告を行っている。集団指導に参加したり書類の提出時など関りをもっている。	市主催の説明会や研修会への参加のほか、家族の依頼による介護認定事務の代行などの際にも、助言、指導を得ている。また、介護相談員による面談、月2回の広報を携えて訪れる区長から、地域情報も入手している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度、定期的に委員会を開き、上位者からの身体拘束についての情報提供を行ったり、学習する機会を設けている。現在、身体拘束している人はいないので、継続していけるよう努力している。施錠についても、不必要な施錠とならないようにしている。	法人の身体拘束防止委員会の情報提供に加え、グループホームにおける身体拘束委員会を毎月開催し、職員への趣旨の徹底と的確な業務の遂行に心掛けている。玄関の施錠も夜間のみで、転倒防止用の居室設置のセンサーは必要に応じて設置している。	

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会を行い、学ぶ機会を持ち、虐待の防止に努めている。会議時にも、話題としてあげ、虐待とならないように気をつけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について、活用した事はないが、学習会を行い学ぶ機会をつくっている。必要性がある時には、活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に対し、出来る限りわかりやすいように説明を行っている。入所時に説明を行いながら、わからない事等があれば、随時対応するようにしている。料金改定の際等には、説明会を行い理解・納得を得て頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時にオンブズマン委員についての説明を行っている。電話連絡や面会時に、ご家族から要望等をお聞きし、検討しながら反映させている。	家族の来所の際に、面談し要望等を聴いているほか、毎月発行のお便りに、手書きで近況をお知らせすることで、意見や要望を伺い、業務に反映させている。また、日常生活の中で、食事、買い物、自宅周辺への外出など、利用者の要望に応えている応じている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の業務の中で、意見や提案を頂きながら、なんでもノートを活用し職員間で把握できるようにしている。会議の際に所長にも参加して頂き、話をする機会となっている。	毎月の職員会議や毎日の連絡ノート、ミーティングにより、職員の意見、要望を把握しているほか、グループホームの経営内容等を職員全員が確認し、職員の自主的な判断による的確な業務の立案、遂行に資している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で各種手当や昇給の規定を設け、職場環境の整備・職員のやりがいとなるようにしている。職員の必要な休みが取れるようにし、家の事やリフレッシュできるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく採用となった職員の方には、法人内の新人研修に参加して頂いている。外部研修にも参加して頂けるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時や集団指導の際に交流をする機会を持ち、情報交換したりしている。法人内の毎月の会議でグループホーム間での状況の報告をおこなっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期には、本人の不安な事等を聞きながら、関わりを持つ機会を多くし、安心して頂けるよう対応している。話をしながら、信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より、つくしの里の日頃の状況を伝えたり、ご家族の気になっている事等を確認し説明を行っている。話を進めていく中で、信頼関係をつくる事ができるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に情報を集め、今何が必要なのかをご家族と話をしながら、職員間で情報共有し、その時にあったケアを提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできる事を把握しながら、本人のペースで無理なくして頂けるようにしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの様子をお手紙で伝えながら、電話連絡や面会時に状況報告している。行事への参加や通院の協力を頂いたりしながら、ご家族と本人を支えている。面会時には、本人とゆっくり過ごして頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の民生委員に来所して頂けたりしている。ご家族の協力で、馴染みの場所に行かれたり、外出機会の際に訪れる機会をもった。	知人や友人の来所や、近所の方が市主催敬老会の贈り物を届けたりと、利用者との交流がある。また、家族がお菓子、お花を持って来所し、遠方の親戚とは電話で連絡を取っている。家族と墓参、外出に出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性に配慮し、職員が間に入りながら、日々の生活でお互いに声を掛けあったりできるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後でも、ご家族から相談があった際には対応している。次の生活の場に行かれた時も、お会いした際には話をする機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向をつかめない時は、本人との普段の関りの中から汲み取り反映できるようにしている。ご家族からも話をお聞きし、一緒に考えながら対応している。	日頃から利用者寄り添い、要望等を聴き取り、連絡ノートを通じ職員間で共有し、食事、入浴、買い物などの支援を行っている。帰宅願望の強い方には、ゆっくり会話したり、散歩などで対応している。誕生日の食事は、極力希望に沿っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前から、本人の状況を確認するようにしている。入所後は、本人との関る中で話を聞いたり、ご家族からも情報を頂き把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の本人のペースに合わせながら、1日を過ごして頂き、今できる事が少しでも長く継続していけるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を活用しケアプランを作成している。定期的にモニタリングを行い、本人の今の状態に合わせ、家族からの要望も聞きながら立案している。	居室担当によるモニタリングを毎月行い、介護計画の原案を6か月ごとに作成し、職員によるカンファレンス会議を経て、医師や看護師の助言・指導を加味して最終案を作成し、家族の同意を得たうえで介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に入力を行い、なんでもノートを活用し、職員間で普段の気づき等情報共有している。ケアチェック表で、ケアプランにあがっている内容の実施有無を記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で、その時々ニーズや状況に応じて柔軟な対応ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設に近所の床屋が来られ利用したり、その床屋へも行き散髪して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続して利用しているが、本人の症状や状態に合わせ、ご家族の理解を頂きながら変更を行ったり、訪問診療を活用している。	入居前のかかりつけ医受診は7名で、協力医に変更が2名である。家族の同伴は2名で、他は家族の依頼により職員が同行している。皮膚科、眼科などの特別科も同様の対応である。法人運営の特養の嘱託医でもある医師による往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の看護師の出勤時には、状態報告をし状態をみて頂き処置をして頂いたり、病院受診をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、訪問し本人の状態を看護師等から聞き確認している。病院の相談員と連絡を取りながら、早期の退院、退院後に必要な対応ができるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態を家族に伝えながら、ご家族の意向や施設でできる事・できない事を説明し、ケアや対応を検討している。特養への申し込みを希望される際には、他事業所と連携し対応している。	重度化した場合等の対応については、入居時に説明している。看取り指針は作成しているが、終末期の際に、改めて家族の意向に沿い、対応することとしている。特養やデイの看護師などの助言、指導を得る体制が整っている。法人の関連施設への入所など、家族の安心、信頼に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会を行ったり、急変時・怪我をした際には、上位者不在時には、確認を取りながら対応している。何かあった際には、次に繋がるように対応について看護師からもアドバイスを頂いている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震時の訓練を定期的に行っている。日勤帯・夜勤帯の状況を想定し訓練を行い、夕方の暗い時間の訓練も実施している。9月の併設施設との合同訓練も計画し、その際には初期消火の訓練も行っている。	敷地内の法人の関連事業所と合同で避難訓練等を実施している。消防署員、消防団員、地域住民の参加を得ている。非常呼び出し訓練、AED訓練、薄暮時の夜間想定訓練に加え、ハザードマップの確認もしている。食材3日分、反射式ストーブの備蓄のほか、特養の自家発電の活用など、万全を期している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに充分注意し、使用する際にも気をつけている。対応する際にも、1人ひとりの尊厳を大切に、プライバシーにも配慮している。	個人情報は、個別にファイルし、事務室で保管している。生活情報はパソコンに記録し管理している。お便りへの写真掲載は、家族の同意を得ている。趣味や調理への参加など、過去の経験と知識を活かして生きがい対策としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思いや希望を把握しながら、普段の会話の中で引き出せるようにしている。本人が表出したり決める事が難しい時には、選択できるようにしたり、本人の気持ちを大事にするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の中で、本人の体調や気分に合わせて、自分のペースで過ごして頂けるようにしている。自分で生活リズムを作るのが難しい方には、ご家族とも話をしながら調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡・ブラシ・髭剃り等、本人用の物品を用意し整容して頂けるように働きかけている。気候等に合わせながら、本人の好みの服を着て頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る範囲で、一緒に調理や準備・片付けをしたり、おやつを作る機会を設けている。行ける時に一緒に買い物に出掛けている。	朝食の調理、食事後の片付けなど、利用者も参加する食事としている。流しソーメンなど旬の食材、季節感を大切に、誕生会では利用者の希望に沿って寿司等を用意している。提供した食事については、管理栄養士から指導を得ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表の使用、個別入力をし摂取量を把握している。本人の状態に合わせ、食事形態を検討している。摂取量の少ない時には、代替品や本人の好む物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	H30年度より、併設施設の口腔ケア研修会に参加し勉強する機会となっている。個々の状態に合わせ、使用物品を購入し口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使用しながら、間隔を把握している。間隔が空く時には声掛けをし促している。居室にポータブルを設置している方もいる。1名ではあるが、本人の状態をみて、パットとリハパンの使用から失禁パンツに変更している。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、それとなく誘導、案内している。排泄を失敗された方には、シャワー、清拭など、他に気づかれないように対応している。自立者は1名で布パンツ利用で、他者はリハビリパンツ、パットを使用し、夜間は床マットセンサーも活用して誘導、案内を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操をする機会をつくっているが、便秘がちになる事が多く、下剤でのコントロールをしている。状態を見ながら。都度量の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時には、ゆっくり入浴して頂けるようにしている。看護師出勤、可能な時には、皮膚の状態をみて頂いている。	週2～3回、午前中に入浴している。車椅子利用者は、シャワー、足湯、清拭で対応している。入浴剤やゆず湯なども提供し、歌や昔話で、楽しい時間としている。長湯希望や入浴を拒否する方は、時間調整や気分転換を行い対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムや体調合わせながら、休息して頂けるようにしている。温度や明るさを調整しながら、安眠できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理をしながら、用法等に注意し対応している。薬の変更や追加がある際には、薬局からの説明も受け、症状の変化や副作用に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の得意な事や好み、楽しみとなる事を把握しながら、やりながら喜びがもてるようにしている。行う際には、本人のペースでして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に買い物に出掛けたり、外出をする時には、利用者の楽しみとなるように検討している。ご家族の協力で、ご自宅に行かれたり、外出をする方もいる。	外出の年間計画はないが、利用者の希望で冬季以外の時期には、花見、花火、夏祭りの見学のほか、ショッピングセンターに買い物に出かけている。敷地内の散歩やプランターでの野菜の栽培など、戸外に出る機会に配慮している。	利用者の気分転換、体力の維持、健康の増進などのため、敷地内散歩に加え、周辺の散策、ドライブなど、外出機会の創出、増加について、検討されることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、職員が管理している。本人がお金を所持される際には、ご家族に紛失等についての説明を行い、理解と納得をして頂きながら対応するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の際には、電話を掛けたり手紙をかけるようにしている。本人宛への電話等があった時には、話をして頂けるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花を飾ったり、日頃の活動の物を掲示している。利用者に快適に過ごして頂けるよう、気候に合わせた温度調整や、明るさの調整をしている。	南向きのロビーは、広い窓から明るい日差しが降り注ぎ、食事用テーブル、ソファなどで利用者は寛いでいる。温度は、エアコンにより管理され、冬期にはファンヒーターも活用している。夏場に扇風機、冬季に加湿器を使用し、季節の飾りや、作品、鉢植え、生花などに囲まれ、快適な生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席をその時々に合わせて検討し、あわせてテーブルの配置についても調整している。玄関や廊下や廊下、フロアにソファを設置し、本人の気分自由に過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具等を配置できる事を、入所時に説明している。本人の状態に合わせてながら、配置の検討し、個々にあった空間となるようにしている。	ベッド、タンス、洗面台が設置され、ナースコール、テレビ端子が配置されている。夜間用トイレは2箇所があり、必要に応じて転倒予防の床センサーマット、厚手の介護用マットが用意されている。利用者馴染みの備品のほか、衣類や趣味の編み物などが置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に表札をつけたり、トイレ等にも掲示をし、わかりやすいようにしている。廊下・フロア・居室は、安全に移動できるように、配置や整理を行っている。		